

様式③【事業実施者が作成すること】

おおいた地域連携プラットフォーム 令和7年度 フィールドワーク支援事業 実施報告書

申請者

学校名 : 別府溝部学園短期大学

所属・役職・氏名 : 学長補佐・教授 牧 昌生

連絡先 電話 : 0977-66-0224

E-mail : mmaki@bm.mizobe.ac.jp

フィールドワーク支援事業について、以下のとおり報告します。

1. 事業名： 未利用果実を活用したふるさと納税返礼品の開発

2. プロジェクト体制

(1) 指導者(所属・役職・氏名)： 食物栄養学科 教授 牧 昌生 、 助手 児玉真由美

(2) 活動地域： 別府市

(3) 連携体制(連携企業・団体・自治体等の名称)：

別府市 企画戦略部政策企画課 ふるさと創生係 主査 木元佳子 0977-21-1122

別府市 建設部公園緑地課 課長 久保田仁 0977-21-1473

河野農園 河野博己 0978-67-2313

株式会社信用産業 別府市石垣東 江田至 0977-75-8510

(有) 東華 桑野英司 090-4485-3739

3. 参加学生について(学年及び人数)

学 年	院2年	院1年	4年	3年	2年	1年	合計
計					15	17	32

※参加学生に対して様式④のアンケート実施(8割以上の回答を得ること)をし、様式⑤に取りまとめること。

有償のスタッフとして参加した学生や、活動の一部にのみ携わった学生については、上記の表に適宜欄を追加し、人数のみ記載すること。

※高校生や小中学生が参加している場合は、学校名や人数等の内訳が分かるように別途記載すること。様式④のアンケートについても可能な限り実施してください。

4. 事業の目的、目標、事業実施内容、地域への成果・効果等について

(1) 本事業で解決を目指した地域が抱える課題・事業目的

別府市の人口は2025年は11.4万人であるが、2050年には8.5万人と大幅な減少予測が出ている。当然、税収の減少となり市民への各種サービスの見直しは避けられない。毎年、別府溝部学園短期大学食物栄養学科は別府公園や南立石公園の豊後梅の果実の収穫を行ってきているが、別府市の収入増にはなっていない。そこで、地域の公園で収穫された未利用の豊後梅果実を活用した、地域の特産品を開発し、別府市のふるさと納税返礼品とした商品を開発する

ことで、果実の有効活用となり、かつ別府市の税収の増加へ繋がる。このことにより別府市民のいこいの場としての公園の整備につながり、国際観光文化都市としての観光イメージのアップに貢献できる。あわせて、別府温泉水を活用した商品を開発して貢献を目指す。そして、この事業に関わる学生の地域課題解決を自らの活動で見える化することで、地域への愛着が増加することが期待できる。

(2) 事業実施経過及び実施内容

※学生の現地視察、学生と対象者との交流や議論、学生による課題解決に向けた検討や活動、対象者へのフィードバックや成果報告等、活動内容を具体的に記載してください。

- 5月 別府市役所訪問。政策企画課にてふるさと納税について学ぶ
- 5月 別府市内の製麺工場見学。製麺の課題および新商品開発の必要性について打ち合わせ
株式会社 信用産業と覚書の締結
- 6月 別府溝部学園短期大学の別府公園の豊後梅を収穫（公園緑地課と連携）
食物栄養学科 学生 教員2名参加
- 7月～1月 収穫した豊後梅の前処理。製麺業者と協働した商品開発
前処理を行った梅を使った試作の実施
- 10月 大分県農林水産祭にて商品開発の試食会
10/18・20の2日間、商品開発した梅スコーキーの試食会実施。大勢の方に参加いただいた
- 10月 別府の温泉水とオリーブ栽培農家訪問。オリーブ果実の収穫・選別。オリーブ油搾油。オリーブ油搾油
残渣果実の取得
国東市 オリーブ農園 河野農園にてオリーブ果実の収穫、選果
杵築市 オリーブ搾油機にてオリーブオイル搾油の実施。搾油残渣の取得
- 10月～1月 オリーブ不良果実等を活用した新商品としての製麺開発
オリーブ果実残渣のエキス化、製麺のための粉配合の割合、水分量（別府の温泉水・オリーブ果実残渣エキス）調整、製麺を使用した商品開発
- 12月 大分県産業創造機構の産×官×学ネットワーク交流会参加
大オリーブ果実残渣入りクッキーの提供・アンケート調査実施
- 1月 研究発表・報告集の作成
- 2月 別府市ふるさと納税返礼品の登録・申請
別府の温泉水・オリーブ果実残渣エキス入り麺、豊後梅わらびもちを政策企画課にて申請予定
- 3月 連携企業店舗にて販売予定
別府市 和風ちゃんぽんうた乃 総本店 店頭販売予定

(3) 学生による課題解決行動と地域への成果等

※成果について、地域や対象者の反応も可能な限り記載すること

- 5月～6月 別府市役所訪問。政策企画課にてふるさと納税について学ぶ
- 5月 別府市内の製麺工場見学。製麺の課題および新商品開発の必要性について打ち合わせ
- 6月 別府溝部学園短期大学の別府公園の豊後梅を収穫（公園緑地課と連携）
- 7月～1月 収穫した豊後梅の前処理。製麺業者と協働した商品開発、
- 10月 大分県農林水産祭にて商品販売
- 10月 オリーブ栽培農家訪問。オリーブ果実の収穫・選別。オリーブ油搾油。オリーブ油搾油残渣果実の取得
- 10月～1月 別府の温泉水・オリーブ不良果実等を活用した新商品としての製麺開発
- 12月 大分県産業創造機構の「産×官×学ネットワーク交流会」にてオリーブ果実残渣入りクッキーの提供・

アンケート調査実施

- 1月 研究発表・報告集の作成
- 2月 別府市ふるさと納税返礼品の登録（オリーブ果実麺・豊後梅わらびもち）を政策企画課にて申請予定
- 3月 連携企業店舗にて販売予定
別府市 和風ちゃんぽん うた乃 総本店 店頭販売予定

5. 使用経費総額 別紙決算書のとおり

6. 参加者アンケート結果 別紙アンケート集計結果(様式⑤)のとおり

7. 事業実施概要 別添ポスター(電子データ提出)のとおり

※事業参加学生募集用のポスター等ではなく、ポスター発表（A0）を行うことを想定し、事業概要及び結果等を1枚にまとめたポスターを作成すること。なお、このポスターは報告書（冊子）やHPで公開します。

参考：<https://oita-platform.org/2025youtube/>

8. 事業の様子 別添写真のとおり

※報告書を作成・公開するため、活動状況がわかる写真提供の御協力をお願いいたします。

学生や関係者の許諾を得るとともに、個人情報については十分留意し写真を選んでください。

本項目のみ、提出は必須ではありません。可能な限りご協力願います。



自由な交流をとおして、イノベーションのヒントを見つけませんか？
企業 × 大学 × 行政・支援機関マッチングイベント

大分市産業活性化プラザ

産×学×官 ネットワーク交流会

日時 **12.19 (金)**
15:30 ~ 17:30
(受付開始 15:00)

自社のアイデア、大学や高専と研究できないかな？
最新の研究を、企業とビジネス化できないかな？

大分市産業活性化プラザでは、産・学・官が自由な雰囲気の中で気軽に話し合える「産学官ネットワーク交流会」を初開催します。自社のノウハウに何かをプラスして新事業を始めたい企業の皆様、地元企業との連携を拡げたい学術機関や支援機関の皆様、大分県イノベーションのきっかけづくりとして、交流してみませんか。皆様のご参加をお待ちしています。

当日スケジュール	対象
15:30 開会・会場説明	下記の中小企業・学術機関・支援機関
15:35 参加者紹介 「強みはコレ！」企業・団体のひとことPR 求めている技術や支援があればリクエスト！	中小企業 × 学術機関 × 支援機関
16:00 可能性を知ろう！オープンイノベーション事例 ▶事例紹介1 「産学官連携のメリットと交流グループ活動の成功事例」 大分市産業活性化プラザ 相談員 公益財団法人 大分県産業創造機構 参加 小谷 公人氏	会場 小・COM ホルトホール大分2F セミナールーム (大分市金港一丁目5番1号)
▶事例紹介2 「食品分野の交流事例」 大分市産業活性化プラザ 相談員 食品総合技術アドバイザー 弘藏 尚子氏	参加費 無料
16:45 歓談タイム ▶名刺交換、ポスター・パンフレット展示	定員 50名 (先着順)
17:30 閉会	申込期限 12月12日 (金)
	主催 大分市産業活性化プラザ
	申込方法

右記QRコードまたは大分市産業活性化プラザホームページから申し込みください。複数名で一度にお申し込み可能です。
<http://sanyo.horutohall-ota.jp>

大分市産業活性化プラザ TEL:097-576-8879 E-mail:sanyo-plaza@horutohall.jp



決 算 書

事業名：未利用果実を活用したふるさと納税返礼品の開発

申請者：別府溝部学園短期大学 牧 昌生

(単位：円)

経費項目	採択額	執行額	備考
報 償 費			
旅 費	10,000	0	
食 糧 費	4,500	5,600	梅収穫時の熱中症対策ドリンク他@140×40本(予備を含む)
借り上げ料・使用料	80,000	80,000	別府公園梅収穫バス@50,000×1台 農林水産祭軽トラ(準備・運搬・片付け含む) @15,000×1台×2日
印刷製本費	0	3,000	交流会参加用アンケート用紙・商品説明資料
役 務 費			
備 品 費			
消耗品費	55,500	63,871	試作用消耗品(小麦粉、バター、卵、砂糖、容器、ラップ、手袋、マスク他)
(合 計)	150,000	152,471	

※執行額が採択額を上回った場合、執行額は全ての費用を記載すること。その上で、「不足額〇〇円については、学内経費により補填した」等、欄外に追記すること。

「不足額2,471円については、学内経費により補填した」

様式④

令和7年度 フィールドワーク支援事業 アンケート

フィールドワーク支援事業に参加した学生の皆さん等を対象に、以下のとおりアンケート調査を実施しますので、ご協力をお願いします。

Q 1. あなたの所属している学校と学部・学科を教えてください
()

Q 2. あなたの出身地を教えてください。
1. 大分市 2. 大分県内（大分市を除く） 3. 大分県外

Q 3. どのような目的（動機）で参加されましたか？
1. プログラムに興味があった 2. 地域貢献に興味があった
3. その他 ()

Q 4. この活動に参加して、地域の課題に気づくことが出来ましたか。 1. はい 2. いいえ

Q 5. この事業は地域の活性化にどのように貢献できたと思うか記載してください。貢献できなかったと思う場合はその理由を記載してください。
1. 貢献できた 2. 貢献できなかった

--

Q 6. 本事業に参加しての満足度を教えてください。
1. 満足 2. どちらかといえば満足
3. どちらかといえば満足していない 4. 満足していない

Q 7. Q 6 で回答した理由を教えてください。

--

Q 8. 本事業に参加して、どの程度地域への理解が深まったかを教えてください。
1. 深まった 2. どちらかといえば深まった
3. どちらかといえば深まらなかった 4. 深まらなかった

Q 9. 本事業に参加しての感想、本事業への意見・要望等ありましたらご記入下さい。

--

※ アンケートへのご協力ありがとうございました。

様式⑤

令和7年度 フィールドワーク支援事業 アンケート集計結果

事業名：未利用果実を活用したふるさと納税返礼品の開発

申請者：別府溝部学園短期大学

Q1. あなたの所属している学校と学部・学科を教えてください。

学校名	学部・学科	人数
別府溝部学園短期大学	食物栄養学科	32

Q2. あなたの出身地を教えてください。

大分市	大分県内 (大分市を除く)	大分県外
6	22	4

Q3. どのような目的(動機)で参加されましたか？

プログラムに興味があった	地域貢献に興味があった	その他
25	7	0

※ その他の記載内訳

--

Q4. この活動に参加して、地域の課題に気づくことが出来ましたか。

はい	いいえ
30	2

Q5. この事業は地域の活性化にどのように貢献できたと思うか記載してください。貢献できなかったと思う場合はその理由を記載してください。

選択肢	回答者数	理由
貢献できた	31	体験しながら研究もでき、貢献にも役立ったため 地域の方に地域貢献内容を伝えることができたため

		自分の他の店舗や活動を見て回り、体験することで貢献できたため 地域で生産されているものを使用し、調理加工をすることで、それを広めることができたため 大分の食材や料理を味わってもらうことができたため 地域の方に積極的に関わることができたため
貢献できなかった	1	自分自身活動の目的の理解が不十分だったため

Q 6. 本事業に参加しての満足度を教えてください。

Q 7. Q 6 で回答した理由を教えてください。

選択肢	回答者数	理由
満足	26	とても勉強になった たくさんの学びをえた いい経験につながった 地域の課題を知ることができた 大勢の方とかかわり楽しかった 良い活動ができた
どちらかといえば満足	6	もっと時間が欲しかった しっかり話を聞くことができなかった 自分のかかわりが浅かったと思うから
どちらかといえば満足していない	0	
満足していない	0	

Q 8. 本事業に参加して、どの程度地域への理解が深まったかを教えてください。

深まった	どちらかといえば深まった	どちらかといえば深まらなかった	深まらなかった
------	--------------	-----------------	---------

26	5	1	0
----	---	---	---

Q 9. 本事業に参加しての感想、本事業への意見・要望等ありましたらご記入下さい。

活動時間が短いので、もっと活動時間を増やしてほしい。
 今まで自分の知ることができない課題を知ることができた。
 地域の方々と連携して物事を進める楽しさや、自分の知らないことを教えていただきながら問題を解決できて貴重な経験になった。

※ 事業実施者の方におかれましては、上記のアンケート結果を踏まえ、自己評価結果を記載して下さい。

学生の主体的なフィールドワーク事業を支援する中で、これまで別府公園等の公共公園にできる豊後梅果実が商品化できれば、市の収入に繋がる課題を抱えてきたが、今回の事業で「商品化」が達成できた。併せて、別府温泉水を商品に利活用する商品が開発できた。この活動をとおして、実際に豊後梅の収穫から食品加工まで参加学生が関わり、別府市内の企業と連携することで売れる商品作りとはどのような物なのかを体験でき、連携企業の関係者と議論を交わし、課題解決の達成感を味わうことができた。学生と地域との交流の良さを体感できた事業であった。あわせて、3年前から国東市産のオリーブ果実搾油残渣等の有効活用を学生と研究開発を進めてきたが、今回、別府市内の温泉水を利用した別府市ならではのパスタを開発し、これにオリーブ果実エキスを添加した。新商品の開発に別府市内の企業と連携したことで、この事業の目的としたふるさと納税返礼品としての商品が完成できた。これまでの実践型フィールドワーク事業の努力が今回達成できたことは、今回活動した学生だけでなく、卒業生も大変感激している。以上のことから、テーマとした「未利用果実を活用したふるさと納税返礼品の開発」がほぼ達成できたとは、参加した学生の多くがこの活動に満足し、多くの成長を感じてくれたことから、この事業に関わる者として責任を果たせたと感じている。